

令和5年11月14日

日立理科クラブ通信

No. 211



「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立山部小学校

今回は、山部小学校（平澤一彦校長）の山縣俊夫さんです。山縣さんは、日立市の出身です。子どもの頃から電気や機械に興味があり、「模型とラジオ」という雑誌を愛読していたそうです。そして、小学校4年生の頃には、将来は技術者になるという夢を持っていたそうです。

そして、夢を実現し、日立製作所日立工場で、コンピュータを使った生産技術の開発の仕事や、国分工場で、技術管理の仕事をしていました。物づくりも大好きですが、どうすればもっと効率よく仕事ができるかというシステムの技術にも関心が高かったようです。

山部小学校の理科室には、クロメダカやヒメダカが飼われています。理科担当の先生は水温が高くなりすぎないようにカーテンを使ったり、水質を考慮して水をくみ置きしたりして大事にしていることを紹介してくれました。先生方との連携を大切にしているのを強く感じました。そして、理科室のおじさんとして、先生方と一緒に、次の授業をどのようにするかアイデアを出し、実行していくことがとても楽しいと話してくれました。

また、山縣さんがつくった「風で動く車」と「段ボールカメラ」を見せてくれました。「風で動く車」は後ろからの風だけではなく、横からの風でも前に進むように帆の形を工夫していました。「段ボールカメラ」は、よくピンホールカメラを紹介されますが、山縣さんのカメラはレンズが付いていて、より鮮明に写っていました。あり合わせの材料を使って、即席で面白い実験装置や科学おもちゃをつくることを得意としているそうです。そして、授業や科学おもちゃづくりをとおして、子どもたちに、理科がいろいろなところで役に立っていることを伝えたいと話していました。

山部小学校は、児童は少ないですが、皆とても仲がよいそうです。そして、例えば、理科室の掃除は一人ですべて行うなど、自分の役割をきちんと果たしているのが素晴らしいと話していました。

この日（10月31日）は、お昼休みを利用して校庭のみかんを収穫する集会がありました。山部地区は古くからみかん栽培の北限といわれ、学区にはみかん園があります。校庭にも数本のみかんの木が植えられ、黄色い実がたわわになっています。山部小のみかんは少し酸味もありますがみかんらしい味がしてとてもおいしいそうです。それを全校児童が協力し合って楽しそうに収穫していました。今日は一人5個ずつの収穫ですが、明日もまた収穫できそうだということです。

最後に、数年前に理数アカデミーのキャリア発表会で使った資料を見せてくれました。山縣さんのこれまでの経歴や今考えていることが1枚の掲示物にまとめられています。山縣さんは、「平和で、自由で、持続可能な社会」をつくりための仕組みについて考え続けているそうです。そして近々本の出版も予定しているそうです。子どもたちにはぜひ大きな夢を持って欲しいと話していました。



「理科室のおじさん」山縣俊夫さん



風で動く車



段ボールカメラ



みかん狩りをする子どもたち

